

報告提出日 2018年12月19日

第一回中間報告

報告期間 2018年9月18日～12月18日

基本情報

2018-19年度地区補助金奨学生 吉本文香

派遣ホストクラブ/カウンセラー: 広島南ロータリークラブ/ 山内恭輔 氏

受入ホストクラブ/カウンセラー: Rotary Club of Abbeydale/ David Quarterman 氏

教育機関: The University of Sheffield

専攻: Landscape Architecture

シェフィールドの街について

シェフィールドは、かつてスチール産業で栄えた、イングランド第五の都市です。地元の方々は、シェフィールドをイングランド1大きな村 (village) と呼びます。都市 (city) よりも、小さくて、自然が豊かで、人が優しい、という意味だそうです。街に行けばなんでも揃う一方で、都会過ぎず、さらにバスで30分ほどで、ピークディストリクト国立公園にハイキングに行ける、ちょうどいい街だと思います。



シェフィールド市街



ピークディストリクト国立公園

また、シェフィールドには2つの大学、シェフィールド大学と、シェフィールドハラム大学があり、治安もとてもよい学生の街です。中国人留学生が本当に多く（私のクラスの7割は中国人留学生でした！）、現在イギリス最大のチャイナタウンの建設中です。中華料理のお店や、チャイニーズスーパーがたくさんあって、お米や味噌も簡単に手に入るので、その点は大変ありがたいです。

天気はイギリスだけあって、本当に変わりやすいです。さっき晴れていたのに、気づいたら雨、というのが日常で、折り畳み傘が手放せません。気温は広島よりも低いですが、雪はあまり積もらないと聞いています。緯度が高いため、最近では日の出が8時より遅く、日の入りは16時よりも早いです。加えて天気が悪いと、太陽を見ることなく1日が終わってしまい少し憂鬱になることもあります。

寮は、トイレとシャワーは個人の部屋についていて、キッチンも5人でシェアする形のフラットに住んでいます。ノルウェー、ギリシャ、アメリカ、中国、日本（私）という、国際色豊かなフラットです。みんな大学院生なので忙しく、キッチンで一緒に飲んだりすることはほとんどありませんが、平和でとても良いフラットです。

学業面の成果

Landscape Architecture コースは、公園や広場などの屋外空間のデザインを学ぶためのコースです。各モジュール（単元）において、対象地が設定されていて、対象地のデザイン案が主な成果として成績に反映されます（この課題を Studio Project と言います）。曜日ごとに異なる講義を受けるのですが、それらが全て Studio Project に活かせるようになっており、とても身になる授業の構成です。また、座って講義を受けるのは週の半分以下で、対象地を実際に訪れたり、デザインのインスピレーションを得るためのエクササイズをしたり、少人数のグループでチューターの先生に質問ができる時間があります。先生方と1対1の関係で話せることや、クラスメイトと各自の進捗について話し合う時間がとても有意義で、毎日新しい学びや発見があります。毎週の課題が本当に多く、今のところ週末は基本的に家にこもって課題をこなしています。



普段使っているスタジオ



外でスケッチをする授業

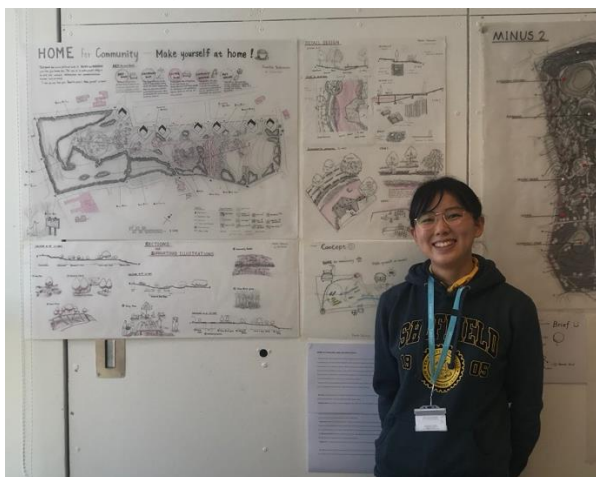
9月から12月中旬までに、2つのモジュールがありましたので、簡単にご紹介します。

モジュール1 Landscape Architecture-Nature, Design and People

このモジュールは、ランドスケープという分野への導入に当たるものでした。Studio Projectの対象地は学部棟から徒歩5分ほどの大きな公園でした。特徴としては、公園全体が斜面になっており、このStudio Projectに関連して、地形や等高線についての講義やワークショップがありました。

また、デザインを人に伝えるという点でとても重要な、Visual Communicationという講義では様々な画材の特徴や絵の描き方、伝え方を学びました。

最終成果物は全て手書きの図面やイメージスケッチと、15分のプレゼンテーションでした。私は地元のコミュニティのための公園というテーマを設定し、地域住民のための共用ガーデンや、大人も子供も遊べるような、地形を生かした大きな滑り台を提案しました。評価は65点をいただきました(60~69点はGood~Very Good、70点以上がExcellentという評価になります)。



左：ファイナルプレゼンテーション



右：地形を表現した模型

モジュール2 Urban Ecological Design and Management

このモジュールは、シェフィールド市が現在進めている”Gray to Green Scheme”から学ぶものです。Gray to Greenとは、Gray(人工的な舗装)から、Green(緑地)にすることで、都市の雨水排水機能を高めようというもので、2007年に豪雨のためシェフィールドで大きな洪水が起こったことをきっかけに始まった官学連携プロジェクトです。またこのモジュールを指導する先生が、イギリスでも有名な植栽デザインの先生で、Greenにした場所を、いかに美しく、また管理の手間の少ない植栽デザインにするかも評価の対象になります。今回はコンピュータソフトウェアを使った図面で、提出期限は1月末です。私はデザイン系ソフトウェアをあまり使ったことがないので、苦戦しています。クリスマス休暇は友達に助けってもらいながら課題に打ち込む予定です。

受け入れ地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーの方々との交流

カウンセラーの David Quarterman さんには、渡英初日から大変お世話になっています。寮の入居日の2日前に渡英したので、2日ほど、お家に泊めていただきました。David さんのお家は私の寮から徒歩15分くらいの場所にあるので、寂しくなったらいつでも来るように言ってくださっています。クリスマスの日も、クリスマスランチとアフタヌーンティーに招待していただいているのでとても楽しみです。



Davidさんと私



左は奥様の Hazel さん

受け入れクラブである Rotary Club of Abbeydale には、これまで3回、ランチミーティングに参加しました。2回目にお伺いした時に、自己紹介のプレゼンテーションをしました。皆さんとても気さくで、日本の気候や食べ物、日本庭園などについて質問もしてくださり、楽しい時間でした。次回は、広島についてお話しようと思っています。

大きな行事としては、9月22日にロータリー財団 GB & I (グレートブリテン アンド アイルランド) 奨学生の集まりに参加しました。グローバル補助金奨学生の方々は、世界の紛争解決や、衛生の問題に直結する勉強をされていて、とても感銘を受けました。日本人奨学生の方々ともお会いできたのでとても良かったです。ほとんどの奨学生の方々はロンドン近郊にいらっしゃるのので、近くを訪ねるときは声をかけたいと思っています。



奨学生の皆さんと記念撮影

また10月6日にはロータリー第1220地区の地区大会に出席してきました。

さらに、11月7日には第1220地区のFoundation Seminarに参加し、Rotary Club of AbbeydaleのAlexさんと一緒に、ミニトークショーをしました。皆さんの前でAlexさんが私に質問をする形で、私の自己紹介と、広島や原爆についてお話ししました。このミニトークショーがとても好評で、来年10月の地区大会でまたやってほしい、というオファーをいただきました。

他にも、1月10日にはRotary Club of Abbeydaleとつながりのある地元のガーデンクラブで、日本庭園について、1月21日には別の地元のクラブを訪問して広島についてそれぞれプレゼンテーションをする予定です。

直面した課題、今後の課題

生活面では特に問題はありません。課題がとにかく多く、徹夜が必要なことも多いので、体調管理に十分気をつけようと思います。秋学期を終えて、課題だけで精一杯になるのではなく、自分でも勉強する時間を作れるようになりたいと思いました。タイムマネジメントは大きな課題です。また、視覚的にも言語的にも、私は自分のデザインを伝える力に乏しいので、絵の表現や言葉の表現を鍛えていきたいと思います。2月頭までクリスマス休暇なので、課題も計画的にこなしつつ、自分に必要な知識やスキルを掘り下げて勉強してみようと思います。